

BEAUTIFYING AND WHITENING SKIN PREPARATION FOR EXTERNAL USE

Patent number: JP8012561 Ref. 13
Publication date: 1996-01-16
Inventor: KOMAZAKI HISAYUKI; SHIBATA YUKI; YAGI EIICHIRO; NAGANUMA MASAKO; FUKUDA MINORU
Applicant: SHISEIDO CO LTD
Classification:
- international: A61K7/48; A61K7/00; A61K35/78
- european:
Application number: JP19940168687 19940629
Priority number(s): JP19940168687 19940629

[Report a data error here](#)**Abstract of JP8012561**

PURPOSE: To obtain the subject preparation for external use, having suppressing actions on melanogenesis and inhibiting actions on tyrosinase activities, excellent in lightening of the color, beautifying and whitening of pigmentation, dermal stains, ephelides, chloasmata, etc., after sunburn, excellent in safety and useful as an ointment, a cream, etc., by blending an extract of Arnica therein.

CONSTITUTION: This skin preparation for external use is obtained by blending 0.005-20.0wt.%, preferably 0.01-10.0wt.% extract of Arnica (botanical name: *Senecio Canescens* Cuatr). Furthermore, the Arnica is a plant growing in an arid grassland, a pasture, etc., in South America, especially the Andes, etc. For example, an extract prepared by immersing a leaf and a stem or a fruit, etc., of the Arnica or the whole herb thereof in an extracting solvent such as ethanol or refluxing the solvent together with the leaf, etc., therein under heating, filtering the resultant extract solution, concentrating the prepared filtrate, etc., is preferably used as the extract.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

RIGHT AVAILABLE COPY

【物件名】

刊行物 13

刊行物 13

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-12561

(43) 公開日 平成8年(1996)1月16日

(51) Int. C1.	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 61 K	7/48			
	7/00	X		
		K		
35/78	ADA C	8217-4 C		

審査請求 未請求 請求項の数2 FD

(全7頁)

(21) 出願番号	特願平6-168687	(71) 出願人	000001959 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号
(22) 出願日	平成6年(1994)6月29日	(72) 発明者	鞠崎 久幸 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内
		(72) 発明者	芝田 由記 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内
		(72) 発明者	八木 栄一郎 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内
		(74) 代理人	弁理士 鈴野 千恵子 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 美白用皮膚外用剤

【添付書類】

(57) 【要約】

【目的】 日焼け後の色素沈着・しみ・そばかす・肝斑等の淡色化、美白に優れた効果を有すると共に、安全性にも優れた美白用皮膚外用剤を提供する。

【構成】 アルニカ (Arnica、学名: Senecio Canescens Cuatr) の抽出物を配合する美白用皮膚外用剤。



127

(2)

特開平8-12561

2

アルニカ (Arnica) の抽出物のメラニン生成抑制作用等に関する報告はこれまでになく、美白剤への応用も全く知られていない。本発明者らは上記知見に基づいて本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち本発明は、アルニカ (Arnica、学名: Senecio Canescens Cuatr) の抽出物を配合することを特徴とする美白用皮膚外用剤。

【0006】以下、本発明の構成について詳述する。本発明に用いられるアルニカ (Arnica) は、南アメリカ、特にアンデスなどの乾性草原、牧草などに生える植物である。本発明に用いられる抽出物は上記、葉と茎または果実等、アルニカ全草を抽出溶媒と共に浸漬または加熱還流した後、濾過し、濃縮して得られる。本発明に用いられる抽出溶媒は、通常抽出に用いられる溶媒であれば何でもよく、特にメタノール、エタノール等のアルコール類、含水アルコール類、アセトン、酢酸エチルエステル等の有機溶媒を単独あるいは組み合わせて用いることができる。

【0007】本発明におけるアルニカ抽出物の配合量は、外用剤全量中、乾燥物として0.005～20.0重量%、好ましくは0.01～10.0重量%である。0.005重量%未満であると、本発明でいう効果が十分に発揮されず、20.0重量%を超えると製剤化が難しいので好ましくない。また、10.0重量%以上配合してもさほど大きな効果の向上はみられない。

【0008】また、本発明の美白用皮膚外用剤には、上記必須成分以外に、通常化粧品や医薬品等の皮膚外用剤に用いられる成分、例えば、その他の美白剤、保湿剤、酸化防止剤、油性成分、紫外線吸収剤、界面活性剤、増粘剤、アルコール類、粉末成分、色材、水性成分、水、各種皮膚栄養剤等を必要に応じて適宜配合することができる。

【0009】その他、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸等の金属封鎖剤、カフェイン、タンニン、ペラバミル、トラネキサム酸およびその誘導体、甘草抽出物、グラブリジン、火棘の果実の熱水抽出物、各種生薬、酢酸トコフェロール、グリチルリチン酸およびその誘導体またはその塩等の薬剤、ビタミンC、アスコルビン酸マグネシウム、アスコルビン酸グルコシド、アルブチン、コウジ酸等の他の美白剤、グルコース、フルクトース、マンノース、ショ糖、トレハロース等の糖類なども適宜配合することができる。

【0010】本発明の美白用皮膚外用剤とは、例えば軟膏、クリーム、乳液、ローション、パック、浴用剤等、従来皮膚外用剤に用いるものであればいずれでもよく、剤型は特に問わない。

【0011】【実施例】次に実施例によって本発明をさらに詳細に説

【特許請求の範囲】

【請求項1】 アルニカ (Arnica、学名: Senecio Canescens Cuatr) の抽出物を配合することを特徴とする美白用皮膚外用剤。

【請求項2】 アルニカの抽出物の配合量が0.005～20.0重量%である請求項1記載の美白用皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はアルニカ (Arnica) の抽出物を配合する事により、メラニンの生成を抑制し、日焼け後の色素沈着、しみ、そばかす、肝斑等の予防および改善に有効な美白用皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 皮膚のしみなどの発生機序については一部不明な点もあるが、一般には、ホルモンの異常や日光からの紫外線の刺激が原因となってメラニン色素が形成され、これが皮膚内に異常沈着するものと考えられている。皮膚の着色の原因となるこのメラニン色素は、表皮と真皮との間にあらメラニン細胞 (メラノサイト) 内のメラニン生成顆粒 (メラノソーム) において生産され、生成したメラニンは、浸透作用により隣接細胞へ拡散する。このメラノサイト内における生化学反応は、次のようなものと推定されている。すなわち、必須アミノ酸であるチロシンが酵素チロシナーゼの作用によりドーパキノンとなり、これが酵素的または非酵素的酸化作用により赤色色素および無色色素を経て黒色のメラニンへ変化する過程がメラニン色素の生成過程である。従って、反応の第1段階であるチロシナーゼの作用を抑制することが、メラニン生成の抑制に重要である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしチロシナーゼ作用を抑制する化合物はハイドロキノンを除いてはその効果の発現がきわめて緩慢であるため、皮膚色素沈着の改善効果が十分でない。一方、ハイドロキノンは効果は一応認められているが、感作性があるため、一般には使用が制限されている。そこでその安全性を向上させるため、高級脂肪酸のモノエステルやアルキルモノエーテルなどにする試み (特開昭58-154507号公報) がなされているが、エステル類は体内の加水分解酵素によって分解されるため必ずしも安全とはいがたく、またエーテル類も安全性の面で充分に満足するものが得られない。

【0004】

【課題を解決するための手段】 そこで本発明者らはこれらの問題を解決するものとして広く種々の物質についてメラニン生成抑制効果を調べた結果、アルニカ (Arnica、学名: Senecio Canescens Cuatr) の抽出物がメラニン生成抑制作用およびチロシナーゼ阻害作用を有していることを見い出し、本発明を完成するに至った。

(3)

特開平8-12561

4

明する。尚、本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。実施例に先立ち、本発明の植物抽出物のメラニン抑制効果、チロシナーゼ活性阻害効果および美白効果に関する試験方法とその結果について説明する。

【0012】試験方法およびその結果

1. 試料の調製

アルニカ (Arnica) の茎および枝部分 50 g を、室温で 1 週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物 5.2 g を得た。この抽出物を DMSO 10 に 1% 溶かし、この溶液を希釈して濃度を調整し、これ用いて以下の実験を行った。

【0013】2. 細胞培養法

マウス由来の B16 メラノーマ培養細胞を使用した。1 0% FBS およびテオフィリン (0.09 mg/ml) を含むイーグル MEM 培地中で CO₂ インキュベーター (9.5% 空気、5% 二酸化炭素) 内、37°C の条件下で培養した。培養 24 時間後に試料溶液を終濃度 (抽出乾燥物換算濃度) で 10⁻⁶ ~ 10⁻² 重量% になるよう添加し、さらに 3 日間培養を続け、以下の方法でメラニン生成量の視感判定およびチロシナーゼ活性阻害効果を測定した。

【0014】3. メラニン量の視感測定

ウエルのプレートの蓋の上に汎散板を置き、倒立顕微鏡で細胞内のメラニン量を観察し、アルニカ抽出物を添加していない試料 (基準) の場合と比較した。その結果を表 1 に表示した。また、参考例として、すでにメラニン生成抑制作用のあることが知られているケイガイ (シソ科オドリコソウ亜科) 抽出物についても上記と同様の試験を行った。

* 試験を行った。その結果を併せて表 1 に示す。また表中、毒性とあるのは、細胞毒性のあることを示す。

【0015】<判定基準>

○：白 (メラニン量)

△：やや白 (メラニン量)

×：基準 (メラニン量)

【0016】4. チロシナーゼ活性の測定

測定前にウエル中の培地は除去し、PBS 100 μl で 2 回洗う。各ウエルに 45 μl の 1% トライトン-X (ローム・アンド・ハース社製商品名、界面活性剤) を含む PBS を加える。1 分間プレートを振動させ、よく細胞層を破壊し、マイクロプレートリーダーで 475 nm の吸光度を測定してこれを 0 分時の吸光度とした。その後、すばやく 5 μl の 1.0 mM の L-DOPA 溶液を加えて、37°C のインキュベーターに移し、60 分間反応させた。1 分間プレートを振動させ、60 分時の吸光度 (475 nm) を測定した。アルニカ抽出物を添加していない試料 (コントロール) の場合の 0 分時と 60 分時の吸光度差に対するアルニカ抽出物添加試料の前記吸光度差の減少分をチロシナーゼ活性阻害率 (%) とした。その結果を表 1 に示す。また、参考例として、すでにチロシナーゼ活性阻害作用のあることが知られているケイガイのエタノール抽出物についても上記と同様の試験を行った。その結果を併せて表 1 に示す。なお、表中、毒性とあるのは、細胞毒性が認められたことを示し、一は、コントロールに比べて、危険率 5% 以内で有意な差が認められなかったことを意味する。

【0017】

【表 1】

試験	メラニン生成視感評価 チロシナーゼ活性阻害率(%)									
	濃度 (重量%)		10 ⁻⁶	10 ⁻⁴	10 ⁻²	10 ⁻¹	10 ⁻⁶	10 ⁻⁴	10 ⁻²	10 ⁻¹
アルニカ抽出物	×	×	△	毒性	27	33	52	毒性		
ケイガイ抽出物	×	×	×	×	—	—	—	—	55	

【0018】5. 白色効果試験

【試験方法】夏期の太陽光に 4 時間 (1 日 2 時間で 2 日間) 曜された被験者 40 名の上腕内側部皮膚を対象とし※40 して太陽光に晒された日の 5 日後より各試料を朝夕 1 回ずつ 4 週間塗布した。パネルを一群 8 名に分けて、5 群とし下記に示す処方で試験を行った。

(アルコール相)

95% エチルアルコール 55.0 重量%

ポリオキシエチレン (2.5 モル) 硬化ヒマシ油エーテル 2.0

融解防止剤・防腐剤 適量

香料 適量

媒剂 (表 2 記載)

(水相) グリセリン 5.0

ヘキサメタリン酸ナトリウム 適量

イオン交換水 残余

(4)

特開平8-12561

5

<製法>水相、アルコール相をそれぞれ調製し、その後両者を混合して可溶化する。

【0019】[評価方法] 使用後の淡色化効果を下記の判定基準に基づいて判定した。

<判定基準>

◎：被験者のうち著効および有効の示す割合が80%以上の場合

○：被験者のうち著効および有効の示す割合が50%～80%未満の場合

*△：被験者のうち著効および有効の示す割合が30%～50%未満の場合

×：被験者のうち著効および有効の示す割合が30%未満の場合

【0020】上記試験法記載の配合組成からなる試料を調製し、表2記載の薬剤を用いて美白効果を比較した。結果は表2に示す。

【0021】

【表2】

薬剤	配合量(重量%)	効果
無添加	—	×
ハイドロキノン	1.0	△
アルニカ抽出物	0.1	○
アルニカ抽出物	1.0	○
アルニカ抽出物	10.0	◎

【0022】なお、表2のアルニカ抽出物は、アルニカ(Arnica)の全草をエタノール中で加熱還元した後、濃過、濃縮乾燥して得たものである。

【0023】表2より明らかに、太陽光に晒された後の効果はアルニカ抽出物を添加した方が過剰のメラニン色素の沈着を防ぎ、色黒になることを予防することが認められた。

【0024】実施例1 クリーム

(処方)

ステアリン酸	5.0	重量%	※アルニカメタノール抽出物	0.01
ステアリルアルコール	4.0		苛性カリ	0.2
イソプロピルミリステート	18.0		亜硫酸水素ナトリウム	0.01
グリセリンモノステアリン酸エステル	3.0		防腐剤	適量
プロピレングリュール	10.0		香料	適量

(製法) イオン交換水にプロピレングリコールとアルニカメタノール抽出物と苛性カリを加え溶解し、加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を徐々に加え、全部加え終わってからしばらくその温度に保ち反応を起こさせる。その後、ホモミキサーで均一に乳化し、よくかきませながら30℃まで冷却する。

実施例2 クリーム

(処方)

ステアリン酸	2.0	重量%
ステアリルアルコール	7.0	
水添ラノリン	2.0	
スクワラン	5.0	
2-オクチルドデシルアルコール	6.0	
ポリオキシエチレン(25モル)セチルアルコールエーテル	3.0	
グリセリンモノステアリン酸エステル	2.0	
プロピレングリコール	5.0	
アルニカエタノール抽出物	0.05	
亜硫酸水素ナトリウム	0.03	
エチルパラベン	0.3	
香料	適量	
イオン交換水	残余	

(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を加え予備50

【0026】

乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した後、よくかきませながら30℃まで冷却する。

(5)

特開平8-12561

7
実施例3 クリーム
(处方)

固体パラフィン	5.0 重量%
ミツロウ	10.0
ワセリン	15.0
流動パラフィン	41.0
グリセリンモノステアリン酸エステル	2.0
ポリオキシエチレン(20モル) ソルビタンモノオレイン酸エステル	2.0
石けん粉末	0.1
礫砂	0.2
アルニカアセトン抽出物	0.05
アルニカエタノール抽出物	0.05
亜硫酸水素ナトリウム	0.03
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水に石けん粉末と礫砂を加え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱溶解して70℃に保つ(油相)。水相に油相をかきまぜながら徐々に加え反応を行なう。反応終了後、ホモミキサー*20

*1で均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。

【0027】

8
実施例4 乳液
(处方)

ステアリン酸	2.5 重量%
セチルアルコール	1.5
ワセリン	5.0
流動パラフィン	10.0
ポリオキシエチレン(10モル) モノオレイン酸エステル	2.0
ポリエチレングリコール1500	3.0
トリエタノールアミン	1.0
カルボキシビニルポリマー	0.05
(商品名: カーボポール941, B.F.Goodrich Chemical company)	
アルニカ酢酸エチルエステル抽出物	0.01
亜硫酸水素ナトリウム	0.01
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) 少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマーを溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエチレングリコール1500とトリエタノールアミンを加え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混ぜ、加熱溶解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を

※合し加熱溶解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。

【0028】

実施例5 乳液
(处方)

マイクロクリスタリンワックス	1.0 重量%
蜜ロウ	2.0
ラノリン	20.0
流動パラフィン	10.0
スクワラン	5.0
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	4.0
ポリオキシエチレン(20モル) ソルビタンモノオレイン酸エステル	1.0
プロピレングリコール	7.0

(6)

特開平8-12561

9

10

アルニカアセトン抽出物	10.0
亜硫酸水素ナトリウム	0.01
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、
加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加
熱溶解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜながら
【0029】

実施例6 ゼリー

(処方)

95%エチルアルコール	10.0 重量%
ジプロピレングリコール	15.0
ポリオキシエチレン(50モル)オレイルアルコールエーテル	2.0
カルボキシビニルポリマー	1.0
(商品名: カーボボール940, B.F.Goodrich Chemical company)	
苛性ソーダ	0.15
L-アルギニン	0.1
アルニカ50%エタノール水溶液抽出物	7.0
2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム	0.05
エチレンジアミンテトラセテート・3ナトリウム・2水	0.05
メチルパラベン	0.2
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水にカーボボール940を均一に溶
解し、一方、95%エタノールにアルニカ50%エタノ
ール水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モル)オ
レイルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加する。
※次いで、他の成分を加えたのち苛性ソーダ、L-ア
ルギニンで中和させ増粘する。
【0030】

実施例7 美容液

(処方)

(A相)

エチルアルコール(95%)	10.0 重量%
ポリオキシエチレン(20モル)オクチルドデカノール	1.0
ペントニールエチルエーテル	0.1
アルニカメタノール抽出物	1.5
メチルパラベン	0.15

(B相)

水酸化カリウム	0.1
---------	-----

(C相)

グリセリン	5.0
ジプロピレングリコール	10.0
亜硫酸水素ナトリウム	0.03
カルボキシビニルポリマー	0.2
(商品名: カーボボール940, B.F.Goodrich Chemical company)	

精製水	残余
-----	----

(製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA
相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を
行う。

【0031】実施例8 パック

(処方)

(A相)

ジプロピレングリコール	5.0 重量%
ポリオキシエチレン(60モル)硬化ヒマシ油	5.0
(B相)	
アルニカメタノール抽出物	0.01
オリーブ油	5.0
50%酢酸トコフェロール	0.2

(7) 特開平8-12561

11

12

エチルパラベン	0.2
香料	0.2
(C相)	
亜硫酸水素ナトリウム	0.03
ポリビニルアルコール	13.0
(ケン化度90、重合度2,000)	
エタノール	7.0
精製水	残余

(製法) A相、B相、C相をそれぞれ均一に溶解し、A相にB相を加えて可溶化する。次いでこれをC相に加え
たのち充填を行う。

【0032】実施例9 固形ファンデーション

(处方)

タルク	43.1 重量%
カオリン	15.0
セリサイト	10.0 *

実施例10 乳化型ファンデーション (クリームタイプ)

(处方)

(粉体部)

二酸化チタン	10.3 重量%
セリサイト	5.4
カオリン	3.0
黄色酸化鉄	0.8
ベンガラ	0.3
黒色酸化鉄	0.2

(油相)

デカメチルシクロペンタシロキサン	11.5
流動パラフィン	4.5
ポリオキシエチレン変性ジメチルポリシロキサン	4.0

(水相)

精製水	50.0
1,3-ブチレングルコール	4.5
アルニカエタノール抽出物	1.5
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	3.0
防腐剤	適量
香料	適量

(製法) 水相を加熱攪拌後、十分に混合粉碎した粉体部を添加してホモミキサー処理する。更に加熱混合した油相を加えてホモミキサー処理した後、攪拌しながら香料を添加して室温まで冷却する。

【0034】

*亜鉛華	7.0
二酸化チタン	3.8
黄色酸化鉄	2.9
黒色酸化鉄	0.2
スクワラン	8.0
イソステアリン酸	4.0
モノオレイン酸POEソルビタン	3.0
オクタン酸イソセチル	2.0
アルニカエタノール抽出物	1.0

10

防腐剤	適量
香料	適量

(製法) タルクへ黒色酸化鉄の粉末成分をブレンダーで十分混合し、これにスクワランへオクタン酸イソセチルの油性成分、アルニカエタノール抽出物、防腐剤、香料を加え良く混練した後、容器に充填、成型する。

【0033】

※【発明の効果】以上説明したように、本発明の美白用皮膚外用剤は、メラニン生成抑制作用およびチロシナーゼ活性阻害作用を有しており、日焼け後の色素沈着・しみ・そばかす・肝斑等の淡色化、美白に優れた効果を有すると共に、安全性にも優れた美白用皮膚外用剤である。

フロントページの続き

(72) 発明者 長沼 稲子
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 福田 實
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.